

令和元年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果(カッコ内昨年同時期結果) | 分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等) |
|--|---|--|---|---|
| 1 学習指導： 探究型授業を推進する。アクティブラーニングの手法を効果的に導入して、生徒の自主的な学習態度を養成する。 | ① 生徒が「予習→授業→復習」の学習サイクルを確立し、主体的に学習に取り組むようにする。 | 平日の家庭学習時間の平均が3時間以上である生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 昨年度：57.8% | 7月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年生：47.5% (45.5%) 2年生：33.2% (46.4%) 3年生：83.2% (82.1%) 全体：54.6% (57.9%) 【達成度D】 | ・昨年同期より3.3ポイント減少した。3年生は1.1ポイント、1年生が2.0ポイントの上昇であったが、2年生が13.2ポイントも減少した。例年、2年次で落ち込む傾向にはあるが、1年次の同期より12.3ポイントも減少している。 ・今後は、朝学習や昼休み等の「すきま時間」の活用をさらに進めるとともに、学習の質的向上を目指す必要がある。 |
| | ② 変化の激しい社会の中で、生徒が将来様々な問題や課題に直面しても対応できる論理的思考力や表現力を身につけるように授業改善を推進する。 | 「授業を通して思考力が高まった」、「授業を通して表現力が高まった」の問いに対して「あてはまる」と答える生徒の平均が A：50%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：30%未満 昨年度：31.6% | 7月 生徒による授業評価結果 「あてはまる」と答えた割合 思考力が高まった：36.1% (32.6%) 表現力が高まった：31.1% (27.1%) 平均：33.6% (29.9%) 【達成度C】 | ・昨年同期より3.7ポイント上昇した。例年のように、思考力より表現力が約5ポイント低い傾向は変わっていない。 ・学年別では、1年生：34.5%(昨年同期30.5%)、2年生：31.5%(同26.1%)、3年生34.6%(同32.7%)であり、全学年とも上昇している。 ・「思考力」及び「表現力」はどの教科でも共通に必要な能力である。引き続き、あらゆる場面を通して高めていく。 |
| | ③ 授業やあらゆる学校行事の機会を利用して、自分の意見や調べたことを発言・発表できる場と雰囲気をつくり、失敗をおそれずに応答や意見発表ができる生徒の増加を図る。 | 「授業中に積極的に発言・発表することができる」と答える生徒が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満 昨年度：48.6% | 7月 生徒アンケート結果 よくあてはまる：11.6% (12.0%) おおむねあてはまる：36.1% (36.2%) 合計：47.7% (48.2%) 【達成度D】 | ・昨年同期より0.5ポイント減少し、ここ数年間の上昇傾向に歯止めがかかった。 ・ALを取り入れた授業や総合的な学習の時間における課題探究の研究発表など、授業中での発言の機会は増加している。しかしながら、自主的にかつ積極的な発言となると少なくなってしまう。授業での一層の工夫が必要である。 |
| | ④ 探究型授業の基盤となる豊かな知識を身につけるため、生徒の読書活動を推進する。また、二水版ビブリオバトル(競技スタイルの書評プレゼン大会)を充実させることにより、的確な発信力の育成にも一層努める。 | 図書の貸し出し冊数が A：3,000冊以上 B：2,800冊以上 C：2,600冊以上 D：2,600冊未満 昨年度：2,916冊 | 7月末時点 図書の貸し出し冊数 2,182冊 (1,475冊) 【達成度A】 | ・今年度も昨年度に引き続き、授業利用時には、事前にテーマ等を聞き、県立図書館の図書も借り受け、調べ学習が効果的になるよう努めている。また、特設コーナーの設置、手づくりポップの作成等も継続して実施した。読書週間中は、生徒自身の選書による一斉読書も実施した。 ・貸出冊数は、昨年度同時期より47.9%増加した(1年40.3%増、2年51.1%増、3年67.9%増)。年度の後半は、二水版ビブリオバトル大会等を通して、読書活動を一層推進していきたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の目標3時間の達成に向けて、生徒に対する指導やアドバイスを適切に行っていく必要がある。 ・記憶の定着には睡眠も重要であると聞く。健康面からも睡眠時間の指導もあってよいのではないかと。 ・生徒の積極的な発言を引き出すため、教員のファシリテーションの研修も必要ではないかと。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・自宅での学習だけでなく、放課後や休み時間、登下校時など、隙間時間を活用した学習時間の確保について指導を継続。 ・基本的な生活習慣の確立は重要と考えており生徒指導面での取り組みを行っているが、保健指導とも併せて引き続き取り組んでいく。 ・校内での研修や、外部研修へ派遣した教員による還元研修などを行っており、今後も必要な研修を行っていく。 | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果(カッコ内昨年同時期結果) | 分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等) |
|--|--|--|--|---|
| <p>進学指導：保護者との連携を深め、高い進路目標を強い意志を持って実現する生徒を育成する。</p> | <p>① 担任面談、学年集会、進路講演会、進路説明会等で、積極的に情報を提供することによって、より高い志望を掲げ、その志望を貫ける生徒を育てる。</p> | <p>3年生の9月段階で難関大・金大を志望する生徒の割合が A：65%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：55%未満 (今年度新規基準)</p> | <p>9月初旬に志望校調査を実施予定 (250名 全体の63.5%) 【達成度】</p> | <p>9月初旬に志望校調査を実施予定</p> |
| | <p>② 進路検討会や日常の情報交換を通じて、授業や部活動で関係する生徒の成績を把握し、進路志望について助言に努める。</p> | <p>「授業を受け持つ生徒や顧問をしている部の生徒の成績を把握し、進路志望についての助言に努めているか」の問いに対して、「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える教員の割合が A：90%以上 昨年度 B：80%以上 よ く：31.4% C：70%以上 おおむね：51.4% D：70%未満 合 計：82.8%</p> | <p>7月 教職員アンケート結果 よくあてはまる：30.0% (33.8%) おおむねあてはまる：52.9% (45.1%) 合計：82.9% (78.9%) 【達成度B】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「よく」の割合は昨年同期に比べやや減少しているが、「おおむね」の割合は増加したため、「合計」は4.0ポイント増加した。 ・今後も、生徒の志望状況の変化が把握できるよう、進路希望調査や模試ごとに、生徒の成績や志望校の閲覧資料等、情報提供を行いたい。 ・進路検討会での協議などを踏まえ、進路志望について、助言できるように、日常の情報交換と共有をさらに進め、多面的な指導体制をつくって行きたい。 |
| | <p>③ 保護者懇談や保護者対象の進路説明会、生徒への面談とおして、生徒の進路に関して保護者と緊密な情報交換を行い、信頼関係を築く。</p> | <p>「本校の進路指導や保護者への情報提供は適切であるか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える保護者の割合が A：90%以上 昨年度 B：80%以上 よ く：19.2% C：70%以上 おおむね：62.3% D：70%未満 合 計：81.5%</p> | <p>7月 保護者アンケート結果 よくあてはまる：15.0% (13.6%) おおむねあてはまる：63.6% (67.2%) 合計：78.6% (80.8%) 【達成度C】</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・「よく」の割合は昨年同期に比べやや増加しているが、「おおむね」の割合は減少し、「合計」は2.2ポイント減少した。 ・3年生に対しては受験に向けた面談および懇談を丁寧に行っており、信頼関係を深めたい。 ・2年生、1年生に対しては入試制度の変更について、進路説明会、保護者懇談などとおして的確な情報提供に努めたい。なお、1年生には文理選択の説明もしっかりと行いたい。 ・スケジュールノートも情報を記録、伝達する手段の一つとして活用を進めたい。 |
| | <p>④ 担任面談、学年集会、進路講演会、進路説明会等で目標達成に向けての生徒の取り組みを評価し、意欲を高めるとともに、入試対策を充実させることにより進路実績の向上を図る。</p> | <p>現役合格者数が A：金大が80以上かつ難関大が30以上 B：金大が80以上かつ難関大が30未満 C：金大が80未満かつ難関大が30以上 D：金大が80未満かつ難関大が30未満 (今年度新規基準)</p> | | |
| <p>学校関係者評価委員会の評価</p> | <p>・進路指導や進路の情報提供について、生徒に比べ保護者の満足度が低いようであり、分析やその対応も大切。</p> | | | |
| <p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p> | <p>・大学入試改革の過渡期であり実際に定まっていない部分もある。ニュース等での断片的な情報もあり不安に思っている保護者が多いようであり、学校として情報収集に努めるとともに、保護者懇談会や保護者向け進路説明会など、様々な機会を通じて適切な情報提供を行っていく。</p> | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果(カッコン内昨年同時期結果) | 分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等) |
|--|--|--|---|---|
| 3 生徒指導・部活動：人間形成に主眼をおいた生徒指導を行い、進学校にふさわしい部活動を追求する。 | ① 効率的な部活動による生徒の学習時間の確保や、学習環境の整備に努めるとともに、部員が主体的に活動する指導を工夫し、技能や成績を向上させる。部活動で得た自信を勉学につなげ真の文武両道を目指す。 | ① 勉強と部活動の両立ができている」と答える割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 昨年度：73.3% ① 高校総体の学校順位が A：8位以上 B：10位以上 C：12位以上 D：13位以下 昨年度：14位 | ① 7月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年：80.4% 2年：72.5% (72.4%) (65.5%) 3年：79.4% 全体：77.4% (80.9%) (72.9%) 【達成度B】 ② 年度成績は冬季競技終了後に確定 | ・1・3年生と比べ、2年生の落ち込みが気になる。県総体後に退部者が出ていることを踏まえ、実態を把握し、顧問や学年団と対応を検討したい。 |
| | ② 生徒が挨拶を自ら積極的に行うよう、教職員が一致した指導を行い、生徒の自覚を高める。 | 「挨拶はしっかり行っている」と答える生徒が A：60%以上 B：40%以上 C：20%以上 D：20%未満 昨年度：33.8% | 7月 生徒アンケート結果 よくあてはまると答えた割合 1年：49.5% 2年：37.3% (39.3%) (32.5%) 3年：43.9% 全体：43.6% (37.3%) (36.4%) 【達成度B】 | ・昨年同時期より、すべての学年で数値が大きく増加した。 ・生徒会のあいさつ運動や、部活動での指導により、生徒の自覚がより高まった。 |
| | ③ 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケート、個人面談・保護者懇談や学校行事等の取り組みを確実に実施することで、いじめの発生を防ぐ。 | 「十分取り組んでいる」と「取り組んでいる」の割合が A：95%以上 B：90%以上 C：75%以上 D：75%未満 昨年度：98.5% | 7月 教職員アンケート結果 十分取り組んでいる：57.1% (40.8%) 取り組んでいる：40.0% (40.0%) 合計：97.1% 【達成度A】 | ・今年度も、学年団の迅速な面談等で、いじめにつながりかねない人間関係トラブルを把握し、その後の指導・観察等に役立てることができている。今後も継続して取り組んでいきたい。 |
| | ④ 日頃からの生徒観察とおして気づいたことを見逃さず、学校全体が連携して、心身の調和を基盤とした生徒の人間形成を図る。 | 「担任・教育相談室・保健室等と連携し、問題(悩み)等を抱える生徒の早期発見・早期解決に努めているか」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：50%以上 D：50%未満 昨年度：94.3% | 7月 教職員アンケート結果 よくあてはまる：40.0% (47.9%) おおむねあてはまる：50.0% (43.7%) 合計：90.0% (91.6%) 【達成度A】 | ・配慮の必要な生徒について、関係者との連絡を定期的に、又必要に応じてすみやかに実施し、共通理解を図ることができた。 ・悩みや問題を抱える生徒について、関係職員と共有し、組織的に支援していく体制を継続していきたい。 |
| | ④ 部顧問や保健体育科等と連携し、生徒自身がけがの予防(熱中症予防含)、傷病時の対応等(AED講習、応急処置等)ができるよう指導を行い、自己管理能力を高める。 | 保健室の外科的利用の件数が、 A：400件未満 B：500件未満 C：600件未満 D：600件以上 昨年度：473件 | 7月時点 外科的利用件数(4～7月) 135件 (188件) 【達成度A】 | ・今年度は、陸上大会が実施されなかったこともあり、5月のけが人数が減少した。 ・体育の準備体操・補強運動を例年以上に正確に実施していることが、ケガ予防に繋がっていると考えられる。 ・2学期以降も、部顧問・体育科と連携しケガ予防に努め、保健室入室時の機会を通して保健指導も行っていきたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | ・発達障害や性的マイノリティーの問題などへの対応も必要な時代となっている。スクールカウンセラーの活用や教員の研修会などをしっかり行う必要がある。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針 | ・発達障害などについて研修により理解を深めるよう継続して取り組んできている。また、スクールカウンセラーと連携しながら支援が必要な生徒への対応にあたっている。今後もこの取り組みを継続していく。 | | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果(カッコ内昨年同時期結果) | 分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等) |
|---|--|--|---|--|
| 4 教職員が常に改革意識を持って業務の効率化をはかり、よりよい教育活動を追求する。 | 会議運営や文書作成のさらなる効率化を行い、また、ICTスキルアップや業務の優先順位付け等を通して、教職員の業務効率化の意識を醸成する。 | 「生徒と向き合う時間の確保に努めている。」の問いに対して「よくあてはまる」と答える教員の割合が、 A：80%以上 B：60%以上 C：40%以上 D：40%未満 昨年度41.4% | 7月 教職員アンケート結果 よくあてはまる : 40.0% おおむねあてはまる : 50.0% 合計 : 90.0% 【達成度C】 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年同時期より10ポイント以上向上しており、おおむねあてはまるという肯定的な回答を含めると90%の教員が生徒と向きあう時間確保に対する意識を持っている。 ・今後さらに業務改善やタイムマネジメントに努め、教職員が生徒理解を基盤とした教育活動を行うため、生徒と向き合う時間を確保するよう指導していく。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・様々な問題に対応するための研修や受験指導など多岐にわたる力をつけるためには、教員の多忙化を改善することは難しいのではないかと。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針 | <ul style="list-style-type: none"> ・多忙化の改善に向け、業務の効率化やメリハリをつけた職務や指導を心がけるよう意識改革に取り組んでいく。 | | | |